

地蔵寺の大日種子板碑

じぞうじのだいにちしゅしいたび



文化財愛護シンボルマーク

名称	地蔵寺の大日種子板碑
別称	大日種子石棺仏、地蔵石棺仏、胎藏界大日一尊種子板碑及び地蔵立像
数量	1基
法量	石棺の地上高147cm、幅62cm、厚14cm
材質	石造、凝灰岩(竜山石)製
時代	鎌倉時代、弘安4年(1281)

所在地	加古川市平荘町池尻1
所有者	地蔵寺
指定	加古川市指定文化財
指定分類	建造物
指定名称	胎藏界大日一尊種子板碑及び地蔵立像
指定年月日	平成3年(1991)10月1日



大日種子板碑



地蔵菩薩立像

この石棺板碑は、古墳時代(6世紀頃)の石棺の部材を再利用し、片面に鎌倉時代(1281年)に大日如来をあらわす種子「^ア」を彫出し、さらに、鎌倉時代末期から南北朝時代初期(14世紀)に、その裏面に地蔵菩薩立像の仏像を彫出したものです。石棺材は、凝灰岩(竜山石)^{たつやまいし}製で、組合せ式石棺の側石です。現在、この板碑は、地蔵寺の六地蔵石棺石仏と並んで、地蔵菩薩立像が正面になるよう立てられています。

背面の種子「^ア」は、胎蔵界大日如来を表すものです。その下には、「弘安四年(1281)四月廿日」の銘が刻まれており、造立年がわかるたいへん貴重なものです。

正面は、周囲に二重光背形^{こうはい}の輪郭を彫って、その中に地蔵菩薩立像が薄肉彫りされています。その作風は、この板碑の左に立つ六地蔵石棺石仏の地蔵菩薩立像と似ており、正面の地蔵像は、背面の板碑より30年から50年ほど新しい鎌倉時代末期から南北朝時代初期の頃に造立されたものと考えられます。

この石棺板碑は、鎌倉時代の制作年の明らかな貴重な種子板碑であるだけでなく、石棺の部材を利用して造った種子板碑を、後に石仏を刻み再使用していることから注目されているものです。古墳時代の石棺材に仏像を刻んだ石造品が多い加古川地域の中でも、重要で興味深い石造品です。

(文・写真／宮本)



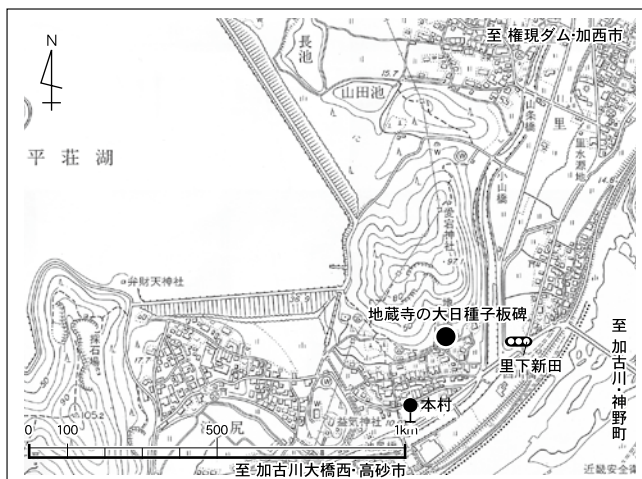
地蔵寺の大日種子板碑全景

●参考文献

- 『石棺仏』宮下忠吉、木耳社(1980年)
- 『加古川の石棺と石棺仏』大手前女子大学考古学研究室(1983年)
- 『加古川市史 第7巻』加古川市(1986年)
- 『播磨の石棺仏(図録)』小野市立好古館(2001年)
- 「加古川市平荘町の石造美術」藤原良夫(『鹿児』128～135合併号、加古川史学会、1987年)

●キーワード

彫刻、石仏、石棺仏、石棺板碑、大日如来、種子、地蔵菩薩、組合せ式石棺の側石



●所在地／加古川市平荘町池尻1

- 交通／JR加古川駅発神姫バス「駒の蹄」行または「都台」行「本村」バス停から北東へ徒歩4分
車は加古川バイパス「加古川ランプ」から北へ4 km